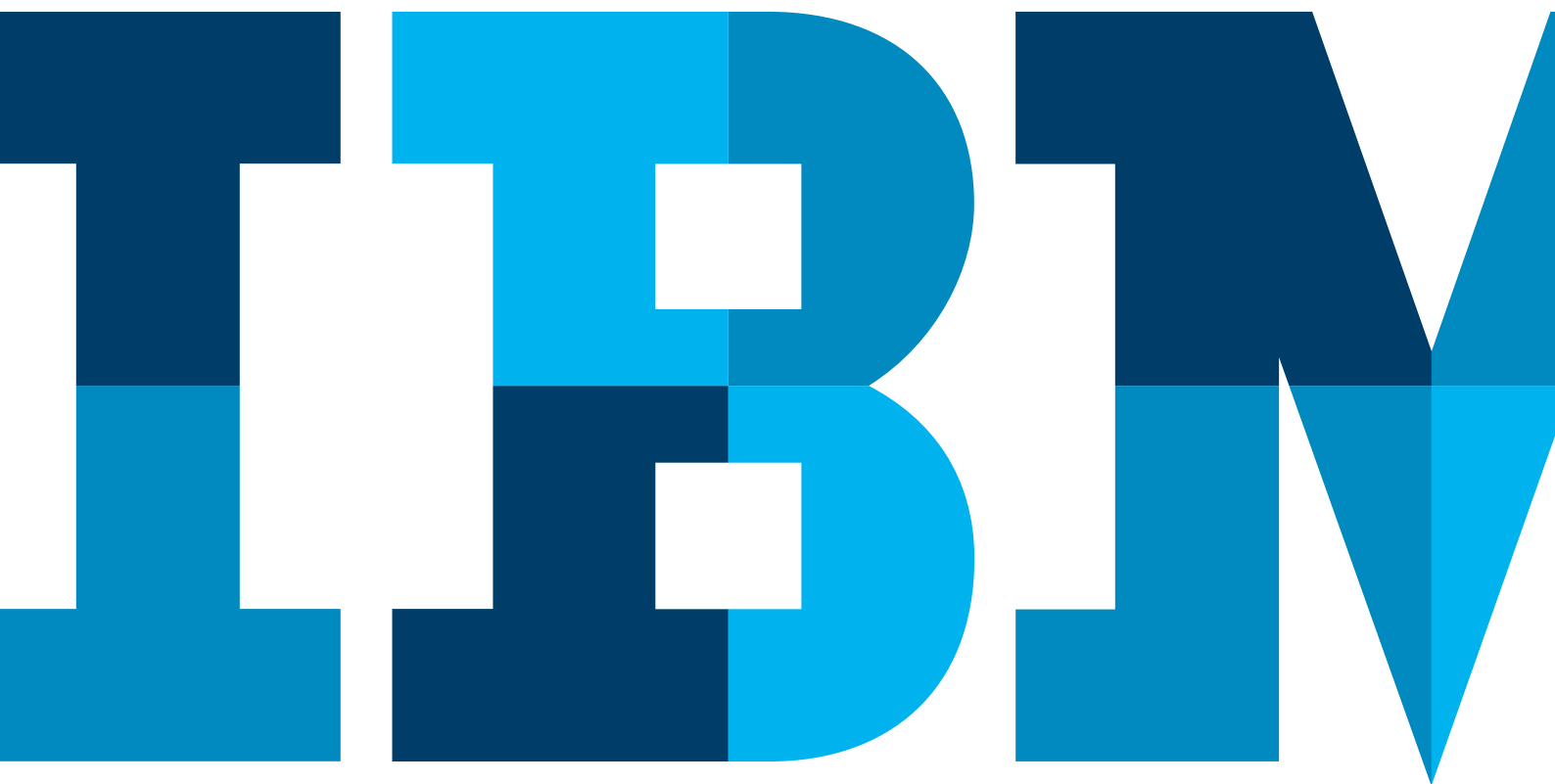


ハイブリッド・クラウド環境、 マルチクラウド環境の最適化と保護

運用、アプリケーション、マルチクラウド高度な管理
ソリューションが、いかにして俊敏性と柔軟性を高めるか



目次

2 概要

2 洗練された管理ツールにより可視化とコントロールを確保

3 サービス・パートナーと連携して、必要なスピードと投資のバランスをはかる

5 次のステップ

[→ このホワイト・ペーパーを Web サイトで読む。](#)

概要

それぞれのビジネス・ニーズを満たし、今日の目まぐるしく変化する環境で競争力を維持するため、気づけばさまざまなクラウド・ベンダーのインフラストラクチャーとソリューションを採用していませんか。ハイブリッド・クラウド環境とマルチクラウド環境は、多くの企業にとって新たなインフラ標準となりつつあります。

しかし、複数のプロバイダーにまたがるクラウド・サービスやデータの管理が負担になり始めています。かつては IT 管理やガバナンスのために中央管理型のアプローチが効果的でしたが、変わりつつあります。新しいクラウド・サービスを導入するたびに独自のツールが増え、複雑さは増すばかりです。このままでは顧客満足度は低迷し、コストは上昇し続けるでしょう。マルチクラウド環境では自社のデータセンター内かクラウド上かに関わらず、パフォーマンスを最適化し、コストをコントロールし、複雑なアプリケーションや環境の組み合わせを確保することのできる新しい管理ソリューションが求められます。

洗練された管理ツールにより可視化とコントロールを確保

予め組み込まれた分析と自動化の機能を活用して能動的に管理しましょう

分析機能を持つソリューションにより能動的なアプローチでマルチクラウド環境やハイブリッド環境のパフォーマンスと可用性を管理することができます。AI や機械学習など、統合された自己学習機能により予兆を捉え、顧客に影響を与える前に、問題を検知することができます。自己学習と自動化を組み合わせたソリューションにより、アラート、イベント、インシデント、問題管理を効率化し、誤認アラートを低減し、重大なパフォーマンス低下や障害が発生する前に問題を解決できるようになります。

Swiss Reinsuranceは、手作業や応答時間を低減するために、プロセス・オートメーションを活用したITサービスのオーケストレーション・ソリューションを採用し、1 カ月あたり 250 労働日を削減しました。

高品質、高性能のアプリケーションのために、DevOps メソッドとツールの採用

複数クラウドにまたがったアプリケーションの管理に、DevOps やエンドツーエンドのアプリケーション・パフォーマンス管理 (APM) をプロセスに組み込むと、より高い俊敏性が得られます。今日のアプリケーションの短い反復サイクルに遅れないようにするために、開発環境、本番環境のいずれでも、パフォーマンスの監視が不可欠です。

DevOps のプラクティスを活用しながら、さらにデリバリー・モデル (パブリック・クラウドおよびプライベート・クラウド、SaaS、さらには従来のオンプレミスIT まで) 全体に可視性をもたらずツールを選択してください。

革新的なアプリケーションのデリバリーと同じく重要なことは、組織が Design Thinking、リーン・スタートアップ、アジャイル開発、継続的デリバリーなどの反復メソッドや管理アプローチのスキルを身に付けることです。さらに、より統合されたアプローチとこれらの新しい手法を、継続的デリバリーを支える強力な自動化と組み合わせる DevOps メソッドロジーが、成功を勝ち取るためには非常に重要になってきます。

→ [DevOpsで真のビジネス価値を引き出すために](#)

マルチクラウド・オーケストレーションによるアプリケーション・デリバリーの最適化

マルチクラウドのアプローチを採用することで、複数環境にまたがるアプリケーションの開発とデプロイを柔軟に実行できるようになります。例えば、開発においては、パブリック・クラウドのプラットフォーム・サービスへ素早くアクセスできることが最適であるかもしれません。実装時、セキュリティ要件が高い、または規制のあるワークロードにはプライベート・クラウドが最適な選択肢となる可能性があります。

しかし、最適なデリバリーを実現するために、複数プロバイダーにまたがる共通タスクを実行する単一インターフェースを用いて、クラウド環境すべてをオーケストレーションすることが必要なこともあります。

ほとんどのクラウドが同様に、オープン・スタンダードをベースとする管理ツールにより、柔軟性を向上することができます。また、セルフサービス機能により、プロビジョニングとデプロイの加速、エラーが発生しやすい手動の工程の削減を後押しする、すぐに利用可能なパターンにチームがアクセスできるようにすることも重要です。変更管理、サービス要求および資産管理への統合、組み込みのガバナンス機能は、マルチクラウド環境のセキュリティとコンプライアンスの管理の労力をさらに支援します。

サービス・パートナーと連携して、必要なスピードと投資のバランスをはかる

複数ベンダーのクラウド・サービスの計画、購入、管理は、複雑化し、非常に効率が悪く、不要なコストの増大につながる可能性があります。作業を効率化してクラウドにおける ROI を最適化するいくつかのオプションを説明します。

クラウド戦略の再評価

はじめてクラウド・ソリューションを採用した時は、希望に満ちて、綿密に練られた戦略を採用しました。クラウドの利用がハイブリッドな実装モデルや複数のクラウド・プロバイダーに拡張されるにつれ、明確なロードマップがいつそう重要になってきています。引き続き時間をかけて、ワークロード、セキュリティ要件、コンプライアンス要件を元に、適切なクラウド環境と

プロバイダーを選択する必要があります。自社内であれ、熟練したクラウド・コンサルタントとの連携であれ、これらの領域に投資することは、開発者や事業部門に最大限の成功をもたらすと同時に、IT部門の生産性リスク、支出の優先順位への対処を支援します。

IT as a Serviceモデルで管理を最適化

複数のクラウド・ベンダーと取引するにあたり、IT as a Service (ITaaS) モデルは、購買と管理のプロセスを簡素化し、IT部門が購買をコントロールすることを可能にします。ITaaSを採用することで、引き続き適正なワークロードの適切なクラウドへの配置を確実に行うことができると同時に、社員が複数ベンダーにまたがるITサービスの調達、オーケストレーション、管理を行うことができるようになります。

ITaaSプロバイダーを選択する際には、プロバイダーがコグニティブ機能を活用して使用量とコストに明快な見通しを提供できるかどうか、能動的に監視や問題管理を行うことができるかを見極めてください。そのプロバイダーは、資源をより有効に活用するための推奨案を提示できますか。IT部門が1つのシステム上でコントロールことができ、企業全体のユーザーがサービスを選択・調達できる、ブローカーの役割を果たすセルフサービス・ストアを提供することができますか。

マネージド・サービスでイノベーションを進めるためにIT要員を解放

複雑なハイブリッド・クラウド環境を管理するための要員やスキルの確保が懸念である場合、マネージド・サービスを活用するのが良いでしょう。マネージド・サービスは、インフラストラクチャーからセキュリティやレジリエンスまで、クラウドのさまざまな分野に対応しており、マネージド・サービス・

プロバイダーが環境を管理している間に、IT部門はイノベーションに注力できます。最新テクノロジーの専門知識と経験があり、同時に大手クラウド・ベンダーと確固たる関係を構築しているマネージド・サービス・プロバイダーを探してください。このような特長を備えたプロバイダーであれば、貴社のアイデアを加速させ、統合されたマルチクラウド環境において新サービスの市場投入時間を短縮できるでしょう。

マネージド・クラウド上に、コールセンター向け自然言語処理分析ソリューションを構築した結果、保険会社は最高の顧客満足評価を実現しました。

次のステップ

ハイブリッド・クラウド環境や、マルチクラウド環境が、デジタル変革において標準となるに従って、管理およびセキュリティに関する課題が、戦略的なアプローチのないまま急増する可能性があります。顧客は低いパフォーマンスに耐えきれず、データが保護されていないともなると、さらにいっそう苛立ちを募らせるでしょう。

顧客からの否定的な反応を避けるには、ハイブリッド IT とアプリケーション管理について、選択肢をじっくり評価することが肝要です。IBM は、AI および自動化を採用した安全な統合ソリューションを提供し、運用およびアプリケーション・パフォーマンスのコントロールを向上させ、同時にマルチクラウド環境における投資とコントロールを最適化します。IBMは、企業のビジネスのために、アジャイルなクラウド・アーキテクチャーの実現を支援します。

次のステップを検討する際、確認すべき重要項目は以下の通りです。

- 自社のハイブリッド IT インフラストラクチャーとそこで稼働するアプリケーションのパフォーマンスに満足しているか
- IT 要員や資源が、ハイブリッド、マルチクラウド環境の管理に能力を 100% 発揮しているか
- ROI を最大化するために、マルチクラウドの資源を最適化してきたと自信をもてるか
- ハイブリッド、マルチクラウド環境の管理において専門知識と経験のあるサービス・パートナーの価値を検討したことがあるか

あわせてお読みいただきたい関連資料

- [DevOpsで真のビジネス価値を引き出すために](#)
- [デジタル化時代のIT 変革、戦略手法は？](#)
- [クラウド複数ベンダー、運用管理解決のコツ](#)
- [「手に負えない」クラウド管理の解決事例](#)
- [マルチクラウドの運用管理サービス](#)



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19-21

IBM のホーム・ページは下記のとおりです。

ibm.com

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、ibm.com/legal/copytrade.shtml

© Copyright IBM Corporation 2018



Please Recycle
